【会則】 平成24年3月 5日 制定
平成30年7月25日 改正

（名称）
第１条　本会は，岡山大学理学部同窓会（以下，「本会」という。）と称する。
（目的）
第２条　本会は，会員相互の親睦・情報交換，並びに資質の向上を図り，併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。
（事業）
第３条　本会は，目的を達成するために次の活動を行う。
一　総会の開催
二　会報の発行
三　会員名簿の管理
四　その他，本会の目的達成に必要な事項
（構成）
第４条　本会は，所在地を岡山市北区津島中三丁目１－１岡山大学理学部内に置く。
２　本会は，事務局を設け，事務職員を置くことが出来る。
３　本会は，必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。
（学科同窓会）
第５条　本会は，学科及びそれに関連する大学院卒業者で別に組織する同窓会（以下「学科同窓会」という。）と連携協力を得て，本会の事業を行う。
（会員）
第６条　本会は，次の項に掲げる会員をもって構成する。
一　正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二　学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学生
学生会員は，卒業することにより正会員となる。
三　特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務（室）長として在職した，又は在職する者
その他，理事会において入会を認めた者
２　本会の会員は，氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは，本会事務局に届け出るものとする。
（学科同窓会の会員）
第６条の２　学科同窓会の会員は，本会の正会員に準じて取り扱うこととし，その取扱いは別に定める。
（役員）
第７条　本会に，次の役員をおく。
一　会長　　１名
二　副会長　　１名
三　理事　　若干名
四　監事　　２名
第８条　役員の任務を次のとおり定める。
一　会長は，会務を総括する。
二　副会長は，会長を補佐し，事務局を統括する。
三　理事は，会長に協力し，会務を執行する。
四　理事は，各学科会員を代表し，本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五　理事は，本会の目的達成に必要な役務（総務・会計・広報・名簿管理等）を分担する。
六　監事は，会計及び会務を監査する。
第９条　役員の選出方法は次のとおり定める。
一　会長は，会員の中から推薦するものとし，理事会で選出する。
二　副会長は，岡山大学理学部長をもってあてることとする。
三　理事は，学科毎に学科長を含めて２名程度とし，理事会で選出する。
四　監事は，理事会で選出する。
五　会長，副会長，理事，監事の任期は2年とし，再任を妨げない。
（会議）
第１０条　会議は，総会，理事会及び役員会とする。
第１１条　総会は，本会の重要事項について審議が必要な場合において，理事会の議を経て，会長がこれを召集する。
第１２条　理事会は，会長，副会長，理事及び監事を以って組織し，会長がこれを召集する。
２　理事会の議長は会長または副会長があたる。
３　理事会は，年1回以上開催し，次の各号に掲げる事項を審議する。
一　会則及び施行細則の改正に関する事項。
二　会務及び業務報告に関する事項。
三　決算承認及び予算の議決に関する事項。
四　その他，役員会において必要と認めた事項。
４　理事会は役員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席者の過半数をもって決する。
第１３条　役員会は，会長・副会長で構成する。
２　役員会は，本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し，協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。
（支部の地域）
第１４条 本会の目的を達成するため，理事会の承認を得て，地域ごとに支部を置くことができる。
（支部組織）
第１５条 支部は，その地域内の会員をもって組織する。
（支部地域変更）
第１６条 支部は，理事会の承認を得て，地域を変更することができる。
（支部の役員）
第１７条 支部に役員として，代表幹事１人及び幹事若干人を置く。
２ 支部の役員は，当該支部の会員の中から選出する。
３ 代表幹事は，支部を代表し，支部の会務を執行する。
４ 幹事は，代表幹事を補佐する。
（支部の会則）
第１８条 各支部は，当該支部に関する会則を定めることができる。
２ 支部がその会則を定めた場合は，理事会に報告するものとする。
（支部幹事会）
第１９条 各支部にそれぞれ支部幹事会を置き，代表幹事及び幹事をもって構成する。
２ 支部幹事会は，必要に応じ，代表幹事が招集し，代表幹事がその議長となる。
３ 支部幹事会は，支部の運営に関する事項を協議する。
（支部の経費）
第２０条 支部の経費は，当該支部所属会員の負担とする。
２ 本会は，支部に補助金を交付することができる。
（会計）
第２１条　本会の運営に要する経費は，会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。
第２２条　本会の会費を次のとおり定める。
一　正会員は，入会金（終身会費）５，０００円を納付するものとする。ただし，既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二　学生会員は，入会金（終身会費）５，０００円を入学時に納付するものとする。
三　既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は，その入会金を免除する。
四　会費の納付方法については，別に定める。
第２３条　本会の運営に要する経費にあてるため，会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第２４条　会計担当理事は毎年，理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第２５条　監事は，毎年本会の会計を監査する。
第２６条　会計担当理事は，正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。
第２７条　本会の会計年度は，毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
（雑則）
第２８条　この会則に定めるほか，本会に関して必要な事項は，理事会の議を経て別に定めることができる。
２　理事会は，会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。
（附則）
１　この会則は，平成２４年３月５日から施行する。
２　この会則は，平成２４年３月卒業者から適用する。
３　会計管理は，事務局が行い代表者は事務局長とする。
（附則）
１　この会則は，平成３０年７月２５日から施行し，平成３０年４月１日から適用する。

岡山大学理学部同窓会　別表

名　称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成 24 年 3 月 5 日	会長 本水　昌二	理学部事務室 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 （東京，千葉，神奈川，埼玉，栃木，群馬，及びその周辺）	平成 30 年 4 月 1 日	代表幹事 米森　重明	米森　重明 090-5330-2391

岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成 31 年 4 月 1 日現在

役　員	氏　　名	所属等
会　長	本　水　昌　二	名誉教授
副会長	富　岡　憲　治	理学部長（教授）
理　事	鳥　居　　猛	数学科長（教授）
理　事	池　畑　秀　一	名誉教授
理　事	小　林　達　生	物理学科長（教授）
理　事	味　野　道　信	グローバル人材育成院教授
理　事	末　石　芳　巳	化学科長（教授）
理　事	岡　本　秀　毅	化学科准教授
理　事	川　本　平　山	全学同窓会理事（化学科）
理　事	上　田　　均	生物学科長（教授）
理　事	西　村　美　保	生物学科助教
理　事	竹　中　博　士	地球科学科長（教授）
理　事	野　坂　俊　夫	地球科学科准教授
理　事	横　谷　尚　睦	附属界面科学研究施設長
監　事	市　岡　優　典	副学部長（教授）
監　事	野　沢　　徹	副学部長（教授）

平成 30 年度　岡山大学理学部同窓会会計報告

（単位：円）

収　入		支　出	
摘　要	金　額	摘　要	金　額
1　前年度繰越	2,206,075	1　事業費	261,783
		(1) 同窓会実施支援費	42,893
2　会費	600,000	歓迎会参加費６名　15,000	
一般学生（Alumni）600,000		国際交流懇親会１名　5,000	
@5,000 × 120 名		ホームカミングディ茶菓代 16,893	
		合同同窓会参加費１名　6,000	
3　預金利息	21	(2) 会報作成 3,000 部	147,900
		(3) 就職セミナー講師謝金２名	50,990
		(4) 渡切費	20,000
		関東支部通信費　20,000	
		2　事務費	246,272
		(1) 通信運搬費	191,736
		DM 便（同窓会報 2466 件）187,416	
		DM 便（同窓会ご案内 55 件）4,180	
		郵券代（事務連絡）140	
		(2) 事務用消耗品費	54,320
		名入れ封筒 2,000 枚　43,200	
		宛名用紙，テープ，印章　11,120	
		(3) 銀行手数料	216
		3　繰越金	2,298,041
		(1) 普通預金	2,283,400
		(2) 小口預金	14,641
合　計	2,806,096	合　計	2,806,096

■編集後記　（岡山大学Alumniニュース をチェックしよう！）

平成25年に設立された岡山大学 Alumni(全学同窓会) は、着実に組織の整備と事業を展開してきた。活動の中心は、岡山大学を卒業した後、全国で活躍している同窓生の連繋とその維持・強化にある。今日まで活動の拠点として東京支部、愛媛県支部、広島支部、東海支部、そして今秋５番目の支部として関西支部を設立した。

岡山大学は今年新制大学として創立 70 周年を迎えた。今春の岡山での記念式典・祝賀会に続き、今夏には Alumni(全学同窓会) 東京支部主催の記念祝賀会が開催され、首都圏在住の同窓生約 200 名が集い創立 70 周年を祝った。記念祝賀会では、第一期生の小長啓一会長が 「リーダーの資格と生きざま」 と題して格調高い記念講演をされ、山崎夕貴さん（フジテレビアナウンサー）が司会を担当し、岡山大学を代表する新旧卒業生の協演により、会場は終始華やかな中にも厳粛な雰囲気に包まれ、同窓生は世代と学部を越えて交流した。

Alumni(全学同窓会) の総会・交流会は、本部および５支部で毎年開催され、各地域で活躍している多くの同窓生が集い、親睦を深め、そして母校との緊密な連携が図られている。同窓生の皆さんには、本学のホームページから発信される情報をチェックして積極的に参加されることを切望してやまない。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事　　川 本 平 山

お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局
〒700-8530　岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp
http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学理学部 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association

2019.10
第8号

理学部創立７０周年に寄せて

理学部同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

新制岡山大学は昭和24年（1949年）5月、理学部を含む5学部体制で発足致しました。爾来、大学院理学研究科（修士課程）、大学院自然科学研究科（博士前期、後期課程）の設置等により、教育･研究体制の整備･充実が図られてきました。平成28年には、異分野基礎科学研究所が設置され、主メンバーとして理学部教員が多数参加し、着々と研究成果が挙がっています。

理学部同窓会は、学部同窓会として8年前に発足致しました。学科の枠を越え、理学部及び関係大学院の卒業生・修了生、関係者から構成される同窓会です。旧学科同窓会員の入会により、会員は現在約3千名です。同窓会をとおして、先輩・後輩の枠を越えた会員同士の親睦や情報交換、また学生会員の就職活動・進路支援等が進展しています。

70年の歴史をベースにした本同窓会は、会員にとって人生をより豊かにしてくれる一生の宝ものであろうと思います。理学部生の皆さんにも是非入会をお願いし、人生の宝ものとしていただくことを念願いたしております。昨年は関東支部も設立され、会員相互のたて・よこの繋がりが大きく進展しています。第2、第3の支部発足を祈念いたします。

今後とも、理学部同窓会のますますの発展にご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

70年以上この位置にて、理学部創立から見守ってきた旧理学部門。門の北側に異分野基礎科学研究所棟建設準備中。

岡山大学理学部同窓会 会長
（昭和 43 年大学院修士課程修了）
本水　昌二

岡山大学理学部同窓会会員の皆様へ

岡山大学理学部同窓会は発足8年目を迎え順調に発展していることを、同窓生の一人としても大変嬉しく存じております。

理学部に関連した本年の大きな出来事として，理学部の教員で構成する異分野基礎科学研究所の建物が新営されることになり、現在建築に向けた準備が進んでおります。予定地は、2号館南の駐車場であったところです。これで、異分野基礎科学研究所は、名実ともに研究所としての歩みを始めることになります。この建物の新営に引き続き、理学部2号館が改装され、さらに1号館の一部が取り壊される計画であり、それに伴って講義室や研究室の配置が大きく変わることになります。すべてが完成するのは2022年度の予定ですが、これを機に、理学部の益々の発展が期待されています。教職員一同、教育・研究に一層力を注ごうとの思いを改めて強くしているところです。同窓生の皆様にも、時に大学をご訪問くださり、理学部の発展をご覧いただければ、大変嬉しく思う次第です。

このような発展も、 同窓生の皆様のお一人おひとりの努力によって築かれた実績によるものと感謝いたしております。皆様には、日ごろより理学部にご支援を頂いているところですが、今後とも引き続きご支援とご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝と、同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

岡山大学理学部長
富岡　憲治

▼活動報告

2019.10.26	理学部同窓会を開催
2019. 9. 4	理事会開催
2019. 7. 27	理学部同窓会関東支部総会を開催
2019. 5. 22	理学部同窓会関東支部交流会を開催
2018.10.20	理学部同窓会を開催
2018. 7.28	岡山大学 Alumni（全学同窓会） 東京支部、各学部支部と 合同総会･交流会
2018. 7.25	理事会開催
2018. 4. 1	理学部同窓会関東支部設立
2017.10.21	理学部同窓会を開催
2017. 7.26	理事会開催
2016.10.22	理学部同窓会を開催
2016. 9. 7	理事会開催
2015.10.17	理学部同窓会を開催
2015. 9. 2	理事会開催
2014.11.20	理事会開催
2014.10.18	理学部同窓会を開催
2014. 8.21	理事会開催
2013.10.19	理学部同窓会を開催
2013. 9. 4	理事会開催
2013. 3. 6	理事会開催
2012.10.20	設立記念総会並びに懇親会開催
2012. 7. 4	理事会開催
2012. 5.25	ホームページを公開
2012. 3. 5	岡山大学理学部同窓会設立

各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics

数学科では平成30年度に24名の学部生が卒業し、11名の修士課程学生が修了、3名の博士課程学生が博士の学位を取得しました。また、今年度は新入生として19名、3年次編入学生として5名を迎え入れ、修士課程には6名、博士課程には3名が進学しています。

教員人事では、今年の3月末日で橋本光靖教授と楠岡誠一郎准教授が退職され、橋本教授は大阪市立大学へ、楠岡准教授は京都大学へそれぞれ転出されています。さらに、8月末日には藤森祥一教授が退職され、広島大学へ転出されました。これらに伴い、9月から藤森教授の後任として山口大学から近藤慶教授が、楠岡准教授の後任として大阪大学から田口大准教授が着任されました。また、12月から橋本教授の後任として佐賀大学から寺井直樹教授が着任する予定となっています。

近藤教授は微分幾何学、田口准教授は確率微分方程式、寺井教授は組み合わせ論的可換環論をそれぞれ専門にされています。専門分野をいかした教育・研究でご活躍いただき、数学科はさらに発展していくものと思われます。島川和久名誉教授は、今年度も引き続き非常勤講師として理学部の教育活動に携わっておられます。数学科では新しい先生方を迎え、これまで以上に教育・研究に励んでいきたいと思います。

数学科長　鳥居　猛

物理学科 Department of Physics

今年も変わりなく、学生さんは元気いっぱい、教員は教育・研究に一所懸命取り組んでおります。9/23-28には強相関電子系の国際会議SCES'19が岡山で開催されます。岡山コンベンションセンター・ママカリフォーラムに800人の参加者（うち外国人400人）を集めて行われます。世界的な研究者と直接触れ合えるまたとない機会で、学生さんたちにもお手伝いいただく予定です。

さて、写真は私と学科事務の峯博子さんです。峯さんは1977年に着任以来、43年もの長きにわたって物理学科に勤められ、来年3月にご退職の予定です。OB/OGのみなさん、物理事務室に遊びに来られてはいかがでしょう？

物理学科長　小林　達生

VOICE 卒業生からの声

私は小林研に3年間在籍し、2017年に修士を卒業しました。現在は日本製鉄㈱にてエンジニアとして働いています。業務内容は継目無鋼管の新製品開発から安定製造です。業務において在学中の研究を直接活用する機会は少ないですが、物理学科で培った真理を追究する姿勢は大変役に立ち、他学部出身の学生より一回り成長が速いと自負しております。今後も、これまでのバックグラウンドに拘らず色々なことにチャレンジしていきます。

今井　健吾（博士前期課程 2017 年修了）

地球科学科 Department of Earth Sciences

地球科学科では、今年４月に大気科学分野の青木輝夫教授が国立極地研究所国際北極環境研究センターに副センター長（特任教授）として異動されました。たいへん残念ではありますが、新天地での益々のご活躍を祈念したいと思います。なお、後任教員については検討中であり、改めてご報告させていただきます。また、岡野　修先生がこの3月末を持って定年退職されましたが、現在客員研究員として研究を続けておられます。千葉 仁先生は昨年度に続き今年度も特命教授として岡山大学の教育活動に携わっておられます。現在の陣容は、千葉先生と岡野先生を除くと教員総数11名、技術専門職員1名、事務補佐員1名となりました。今年度はこのメンバーで充実した教育と優れた研究成果を目指して努力してまいります。今後とも地球科学科に対するご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

今年度は27名の新入生と２名の三年次編入生を迎えました。今年も恒例の新入生学外研修が、5月に土日を利用した一泊二日の日程で井倉～成羽～総社周辺でありました。今回は多数の地球科学科教員が参加し、鍾乳洞で有名な井倉洞の見学をはじめたくさんの研修メニューが組まれました。宿舎は高梁市青少年研修センターを利用し、1日目の夕食と２日目の昼食は全員で協力して自炊しました。センターの方からのたくさんの差し入れもあり、たいへん充実した食事でした。多くの新入生にとって印象深い研修であったと思います。

最後になりましたが、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を祈念いたします。

地球科学科長　竹中　博士

Faculty of Science Message from OB Okayama University

難波　隆弥
2014年３月　数学科卒業

私は2010年に理学部数学科へ入学し、2019年に博士後期課程を修了するまでの９年間岡山大学でお世話になりました。現在は縁あって立命館大学理工学部数理科学科に助教として勤務しています。初めのうちは新しい環境に馴染むことができるかなど不安もありましたが、現在は落ち着いて自分の問題に取り組むことができています。私は確率論を専門分野としており特にグラフ上のランダムウォークの極限定理に関して、確率論的視点だけでなく幾何学的視点も大切にしながら研究を行っています。少し顧みると学部時代には代数学や幾何学が大の苦手で、消去法的に解析学方面へ進みました。しかしながら実際の研究の場面では分野を問わず様々な道具が必要になります。勉強すべきことがたくさんあり、本当に研究者として身を立てていくことができるだろうかと苦悶する時期もありました。しかしながら現在までなんとかやってこれているのも学部時代に数学科で培った知識のおかげであるといえます。また多くの数学が有機的に絡み合う美しさや面白さを体感することができたことも現在のキャリアに大きく影響を与えています。これからも独創性あふれる結果を生み出すことができるよう研究に邁進していく所存です。

化学科 Department of Chemistry

令和元年度、大学組織が目まぐるしく変更されながらも、化学科および異分野基礎科学研究所の化学系教員の23名（全学教育学生支援機構、グローバル人材育成院等の兼担教員を含む）が、学部学生および大学院生の教育研究を担当しています。現在、長期で海外出張している教員はおらず、全教員が協力しながら、学生の教育・研究指導に励んでおります。平成30年度は、32名の学部学生が卒業し、23名の修士学生が修了し、7名の博士課程学生が博士の学位を取得しました。今年度の修士課程には、27名もの多くの学生が大学院に進学し（定員24名）、第一線の研究に活発に取り組み、今後の活躍が期待されております。また、学部3年次の12月より課題研究を開始できるようにカリキュラムを変更し、3年次生の研究室配属を開始しました。新たな教育・研究制度を設け、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しております。

同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。今後とも、化学科に対するご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

化学科長　末石　芳巳

VOICE 卒業生からの声

私は、博士前期課程の2年間、物理化学研究室に在籍していました。現在は兵庫県のTOYO TIRE株式会社で研究員として働いています。研究所では未来を見据えた次世代タイヤの開発を目指して日々業務を行っています。自動運転など、自動車業界では今100年に一度の変革期を迎えており、タイヤに対してもより高度な機能が求められるようになっています。プログラミングや電磁気など、未経験の分野の知識も必要ですが、研究に対する考え方などは在学中の経験が非常に役に立っています。自動車の安全、安心を支える次世代タイヤを世の中に送り出すことができるよう、日々努めたいと思っています。

正本　大明（博士前期課程　2018 年修了）

生物学科 Department of Biology

３月に多賀正節教授が定年退職され、４月に阿保達彦先生が教授に昇任、進化生態分野には三村真紀子先生が准教授として着任されました。西村美保助教は５月に第一子が誕生し、育児休暇に入られました。現在の教職員は、教授８名、准教授７名、助教４名、事務担当職員１名です。今年度の新入生は31名、3年次編入生は４名で、新入生研修は、細胞などの造語の作成で知られる宇田川榕菴などが紹介されている津山洋学資料館などに行きました。今回から卒論発表の際に、ポスター発表に加え短い口頭発表することを始めましたが、全員しっかり発表でき充実した発表会となりました。また、中原教育研究基金により、本年度大学院に進学した学生の中から卒業研究が優秀だった３名を選び奨学金を支給し、４回目の野外実習を５月に県立自然公園で行ないました。

生物学科長　上田　均

VOICE 卒業生からの声

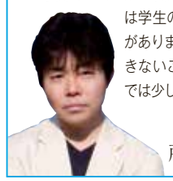
超高齢化社会を迎えている我が国において、健康寿命の延伸は重要なミッションとなっています。愛知県大府市の国立長寿医療研究センターは、加齢に伴う疾患の予防、治療、分子機序の理解を目的とした病院併設の研究機関です。現在私は、当研究所にプロジェクトリーダーとして勤務しています。医学をバックグラウンドに持つ先生も多い中、基礎研究者の立場から老化の分子機構解明に向けて、日々研究を行なっています。

赤木　一考（博士後期課程　2011 年修了）

附属臨海実験所 Marine Laboratory

臨海実習での野外活動では雨よりも風の影響が大きく、今年では実習Ⅰでは珍しく「高気圧」の影響で実習中強い風のためほとんど船が使用できず、参加学生には気の毒でした。また、公開臨海実習(臨海実習Ⅱ)では外部から講師を招き、今年は現在先端的研究として注目されている環境ＤＮＡ、また、進化的に重要な平板動物についての興味深い実習が行われました。研究面では、文部科学省認定共同利用拠点としてハワイ大学、東京大学等との共同研究も順調に行なわれています。常駐する学生も多く、にぎやかな研究生活となっています。

写真:ツバサゴカイ(環形動物)とその棲管。発光生物は学生の興味を特に引き、本種も人気があります。一時期はなかなか採集できないこともありましたが、牛窓周辺では少しずつ増えてきたようです。



所長　坂本　竜哉

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science

気体と液体、液体と固体など異なる物質同士が接触する境界面を界面（表面）と呼びます。普段は余り使わない言葉かもしれませんが、石鹸などの洗剤があぶらになじみやすい部分と水になじみやすい部分を併せ持つ分子（界面活性剤）を主成分として含むことを考えると、我々の生活にも密接に関連していることが想像できると思います。界面（表面）における原子、分子の配列は物質内部（バルク）とは異なっているため、界面に特有の性質が発現します。そのため、界面（表面）においてバルクとは異なる特性の探索が活発に行われています。附属界面科学研究施設では、人類の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員がそれぞれの専門分野の研究を展開してきました。また、広島大学放射光科学研究センターに設置された岡山大学ビームライン（上図）を活用し教育研究を行ってきました。界面（表面）を利用した新たなデバイス開発や超伝導（ある種の物質の電気抵抗が、その物質に特有な温度（超伝導転移温度）以下でゼロになる現象）を示す新物質開発と超伝導機構の解明を目指して活発な研究が行われています。

施設長　横谷　尚睦

異分野基礎科学研究所 Research Institute for Interdisciplinary Science

異分野基礎科学研究所は、2016年4月に発足した新しい研究所で、基礎物理学から生物科学という異なる分野の研究者が協力し、異分野間の交流を通じて基礎科学の新しい研究分野を切り開くことを目指しています。研究所は、国際的な視点で研究活動を行うことを重要な指針としており、外国人特任教授の主導する研究グループも２つ存在します。現在、約50名の教員が大学院学生とともに研究活動を活発に行っており、世界的に評価される研究成果も多数生み出されています。2021年初頭には研究所の総合研究棟が完成することになっており、所員一同、研究所が世界的な研究拠点になることを目指して、益々頑張っていく所存です。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

所長　久保園　芳博